

『ソフトウェア品質保証の極意』のご紹介

一般財団法人 日本科学技術連盟
ソフトウェア品質保証プロフェッショナルの会

書籍のURL ⇒ [ソフトウェア品質保証の極意 経験者が語る、組織を強く進化させる勘所 | オーム社](#)

試し読みURL ⇒ [ソフトウェア品質保証の極意](#)



1. 「ソフトウェア品質保証の極意」とは

ソフトウェアの品質保証に関する悩みを、経験者の知見で解決する書籍

◆ 見開き偶数ページ/ 1 極意で悩み解決

- ◆ 各極意の構成
 - ① タイトル「極意」
 - ② 想定される現場の悩み
 - ③ 悩みに対する解決のヒント
 - ④ 要所でのコラム

①

21

構成管理

②

?

プロジェクトの特性に合わせた構成管理の導入は可能でしょうか？

「構成管理をしっかりと行うことはとても重要なこと」と理解していても、構成管理の目的を理解してなければ、思うように運用できず成果を得ることができません。構成管理手法を決めて、段階的に効果を実感しながら構成管理を実施することも一つの有効な方法です。

③

ヒント 1

プロジェクトの特性に合わせて、構成管理手法を決める

プロジェクトの特性（システムの規模や機能実現の複雑さ、開発期間やリリース頻度など）に合わせて、適用する構成管理手法を考えてみることも解決策の一つです。構成管理手法の例を、表3.2に示します。

表3.2 構成管理手法（例）

構成管理手法	内容
最新版のフォルダ管理	ソースやドキュメントの最新版だけわかる
更新日付による履歴管理	ソースやドキュメントの改版の前後関係がわかる
構成要素のバージョン管理	ソースとドキュメント間で同一仕様であることがわかる
ベースライン管理	過去の構成のシステムを再構築（再現）できる
トレーサビリティ管理	要件から設計ドキュメント、ソースまでの関係がわかる

なお、構成管理にあたり、ツール導入が負荷軽減や適切な構成管理の助けになると考えられます。バグトラッキングツールやタスク管理ツールとバージョン管理ツールとを密に連動させることも大事です。

④

Column

構成管理ツールを活用する

構成管理ツールを活用する際には、さまざまなツールを調査して、当該プロジェクトの運用に適したものを採用します。また、採用の際は、構成管理ツール単独で決定するのではなく、図3.1に示すように、他の開発支援ツール（プロジェクト管理ツールやCIツール、テストツール、分析・レポートツールなど）と連動させることを考慮するとよいでしょう。

ツールの連動により、プロジェクトマネージャー／プロジェクトリーダーや開発メンバー間の情報共有が進むのはもちろんですが、開発部門と品質保証部門間の情報共有も可能になります。それにより、品質保証部門による第三者視点での気づきが得られやすくなり、プロジェクトリスクの早期気づきや解決に繋げられるようになります。

図3.1は、開発と品質保証のワークフローを示しています。開発メンバーはプロジェクト管理ツール（チケット）からタスクを取得し、構成管理ツール（ソースコード）にコミットします。このコミットがトリガーとなり、CIツールが自動的にビルドとテストを実行します。テスト結果は品質把握（品質管理）にフィードバックされ、開発メンバーはテスト結果を確認して必要に応じて修正を行います。最終的にビルドとデプロイが行われ、コード解析・テストとテスト分析・レポートが完了します。

図3.1 ツールの連動を考慮した環境構築（例）

出典：ソフトウェア品質保証部長の会第12期グループ3「品質課題を解決する自動化の始め」
https://www.juse.or.jp/sqip/community/bucyo/12/files/shiryou_seika3.pdf

2. 各章の構成と収録した極意(第2章)

章	節番号	極意
2章 組織レベルのソフトウェア品質マネジメント	2.1 QMSの構築と運用 2.2 ライフサイクルプロセスのマネジメント 2.3 ソフトウェアプロセス評価と改善 2.4 検査のマネジメント 2.5 監査のマネジメント 2.6 教育および育成のマネジメント 2.7 法的権利および法的責任のマネジメント	極意01 QMS構築は組織の責任分担を明確にする 極意02 組織の品質目標達成が品質保証活動の目的 極意03 標準プロセスはテーラリングをしてこそ使える 極意04 現場の成熟度は段階的に一步步進める 極意05 真の原因を究明し、水平展開しないと発は止められない 極意06 時代の変化に合わせて、検査自身も変わる 極意07 品質保証部門の成果は、出荷後に判断される 極意08 監査を技術伝承の場、顧客や社会にアピールする機会と考える 極意09 監査結果の指摘事項はリスクと共に伝える 極意10 事業戦略として教育を定着させる 極意11 自ら考える機会を与えてこそ人は育つ 極意12 現場が認識を持つべき法規制を明示する 極意13 セキュリティに関わる訴訟の判例を押える

3.各章の構成と収録した極意(第3章)

章	節番号	極意
3章 プロジェクト共通 レベルのソフトウェア 品質マネジメント	3.1 意思決定のマネジメント 3.2 調達のマネジメント 3.3 リスクマネジメント 3.4 構成管理 3.5 プロジェクトマネジメント	極意14 お客様が何に重きを置くかで最終判断 極意15 工程完了判定は中間評価で早めの準備 極意16 課題の状態観測と優先度付けにより問題発生を予防 極意17 製品調達は調達前の見極めが命 極意18 クラウドサービス提供者との責任分担を明確に 極意19 リスクは定期的に監視することでコスト削減可能 極意20 顧客とのリスク共有がリスク低減に繋がる 極意21 プロジェクト特性に合わせて構成管理手法を決める 極意22 トレーサビリティの確保は、まずは、V字の両端から始める 極意23 「問題なし」報告は何の問題がないのかを聞き返す 極意24 プロジェクト推進は、全体の成功を目標に行う

4. 各章の構成と収録した極意(第4章)

章	節番号	極意
第4章 プロジェクト個別レベルのソフトウェア品質マネジメント	4.1 品質計画のマネジメント 4.2 要求分析のマネジメント 4.3 設計のマネジメント 4.4 実装のマネジメント 4.5 レビューのマネジメント 4.6 テストのマネジメント 4.7 品質分析および評価のマネジメント 4.8 リリース可否判定 4.9 運用および保守のマネジメント	極意25 品質目標はリーダーが良くしたいことを設定する 極意26 品質指標は判断根拠になるように設定する 極意27「真の要求」は顧客要求の先の業務にある 極意28 設計を開始する前に「要件の欠陥」をなくす 極意29 スcope変更をマネジメント下に置く 極意30 要件との一貫性と設計の整合性を検証する 極意31 設計書は何を書くべきかプロジェクトとして決める 極意32 テストファーストで開発生産性を上げる 極意33 コーディングルールの徹底で品質の基盤を作る 極意34 全量のレビューで品質確保の基盤を作る 極意35 レビュー目的の明示でレビュー効果を上げる 極意36 レビュールールを明文化して周知する 極意37 テスト品質はテスト計画で決まる 極意38 類似不具合を漏れなく炙り出す 極意39 品質向上には、計測と評価が必要 極意40 品質目標と実績のギャップを見える化する 極意41 基準値を外れた場合の施策をルール化する 極意42 リリース判定はリリース後の準備状況も確認する 極意43 本番障害対応は時間軸を変える 極意44 トラブルでの失敗を改善に繋げる仕組みを作る

書籍のURL ⇒ [ソフトウェア品質保証の極意 経験者が語る、組織を強く進化させる勘所 | オーム社](#)

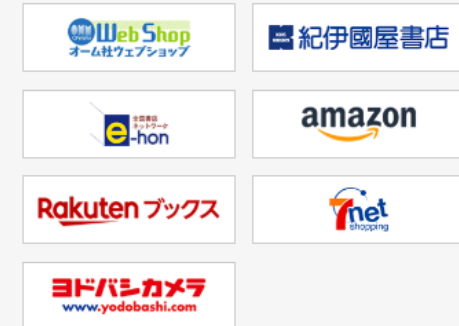
試し読みURL ⇒ [ソフトウェア品質保証の極意](#)

ソフトウェア品質保証の極意 経験者が語る、組織を強く進化させる勘所



著者 : 日科技連ソフトウェア品質保証プロフェッショナルの会 編
定価 : 3,300円 (本体3,000円+税)
判型 : A5
頁 : 216頁
ISBN : 978-4-274-23230-5
発売日 : 2024/09/18
発行元 : オーム社

● 紙の書籍を買う



● 電子書籍を買う

